

圣

圣の本字は𠄎で、(𠄎)織機(はた)に張られた“たていと”の象形です。“たてにまっすぐに通す”という意味の部首です。音はケイ(漢音が ei の音は、呉音は yô ですから、圣の呉音は kyô です)。

経は、圣の本義「たて糸」を表わした字です。これに横糸(緯)が加えられて布ができあがります。横糸は糸を代えることも、切れた糸をつなぐことも簡単にできますが、縦糸はそうはいきません。そこで、基本になる大切な糸というので、「経典」「経文」のように、“大切な書物”また「経営」のように“計画”し、“おさめる”という意味にも使います。

地図の上に南北に引かれた線を**経線**というのは“たて糸”という意味です。

径は、“まっすぐな道”が本義で、山道に設けられた“近道”“小みち”の意味に使われます。山道はつづら折りの道が本道ですので、**近道はまっすぐな道**であり、**小道**なわけです。彳は行、つまり辵で道の象形です。“道”または“歩く”ことを表わす部首です。

“直径”というのは、円周上の一点から反計側に円周にそって行く、行き方に対して、「中心を通過して“まっすぐに”引かれた線」という意味のことばです。

茎は、草のまっすぐな部分ということになりますから“くき”であること

はすぐわかると思います。

脛は、月が“肉体”の意味の部首ですから、体のまっすぐに伸びた部分とは“すね”を表わした字であることがすぐわかったと思います。

頸は、頁が“頭”の意味の部首ですから、頭の茎に当たる所は“くび”以外には考えられないでしょう。

故事にある「^{フンケイ}勿頸の交わり」とは、くびをはねられても後悔しないというかたい交わりのことです。

瘕は、疒が“病気”の意味の部首ですから、“すじの病気”ということになります。筋が引きつれる病気で普通「瘕瘕」と言います。

軽は“径(小道)を走らすことのできる車”という意味で“径車”が本義です。“軽快な車”ということから、単に“軽快”の意味になりました。軽便、軽装。また「軽率」(かるはずみ)や「軽蔑」(軽んずる)というようにも使います。

勁は、“つらき通す”力のあることを表わしています。“つよい”“丈夫”の意味の字です。

剗は、刂が刀の意味の部首ですから、“刀で^{くび}頸を切る”という意味の字です。

逕は、径と同じ成り立ちの字で「小みち」「近道」の意味の字です。径と同じように使われます。